

「ネット解禁は選挙戦で有効でしたか？」

●エンジニアさんからの質問

今回、初のネット選挙が解禁となりました。実際にネットを活用し選挙戦で戦われたわけですが、その良さ、悪さ、今後に向けて改善すべき課題など、西田先生が感じたことを教えてください。

●西田昌司の答え

私は以前から、ビデオレターや週刊西田などで情報発信をしてきました。国会議員の中では最もネットを活用してきた方だと思います。今回ネット選挙が解禁されましたので、選挙中は毎日ビデオレターを更新しました。それらの動画の再生回数ですが、一番再生が多かったのが、安倍総理が応援に駆け付けていただいた時の動画で、それでも1万回程度でした。その他の動画については、2千回程度です。それらの視聴者が全て京都選挙区の有権者であればまだ良いのですが、実際は府外の方の割合が多いのでしょうか。正確な割合や、ネット選挙がどのくらい影響があったかについて、はっきりとはわかりません。

今回の選挙で、いろいろな方が応援に駆け付けてくださいました。一日に個人演説会会場を4箇所回るとなると、一会場で10～15分程度しか話せません。このような会場で、おそらく初めて私の話を聞かれる方だったと思いますが、ある政策についての意見を求められました。しかし時間がありませんから「その件については、ビデオレターで説明していますから、そちらをご覧ください」と返答しました。街頭遊説中も同じようなことがありましたが、選挙中の街頭遊説や個人演説会で、様々な政策について詳しく説明する時間はありません。しかしそれらについては、私のHPでこれまでに発信した膨大な動画等で既に説明しています。アーカイブを参照していただければ

ば、私の考えを知ることができます。（ビラ等では考えが十分に伝わりません。）私の動画は全国の方が見ておられます。今回の選挙では、他府県から毎日のように応援に駆け付けていただいた方も何人かおられました。票にはつながりませんが、大変に励みになりました。そのような熱心な支持者の存在は、他の人に対して私のアピールになったと思います。

インターネットで大事なものはコンテンツ＝中身です。インターネットは単なる道具・手段です。どれだけ中身の濃い内容を有権者に伝えられるかが勝負です。またそれら発信した情報はアーカイブとして残ります。署名記事を書くに等しい責任が生じます。政治家は自分の言葉に責任を取らされるわけで、試金石になるし、それが大事なことだと思います。ネット選挙は解禁になりましたが、ビラに関しては証紙を貼らなければならなかったり、当選御礼の葉書は出してはいけないが、ネット上で当選の御礼を述べるのはかまわなかったりと、いろいろところで矛盾が生じています。国政選挙だけではなく、地方選挙においてもネット選挙が出来るように、今回の事例を糧として生かさねばなりません。ネット選挙を解禁して、悪い点はなかったと思います。「なりすまし」の被害も聞いておりません。しかし私自身に関して言えば、私のこれまでの動画の題名を意図的に変えて、私を誹謗中傷する目的の動画がアップされたらしいです。私はその動画を見ていませんが、あまり気分の良いものではありません。しかし、あまりむきになる必要もないでしょう。そのような動画でも中身を見てもらえば、私の言わんとすることはわかるはずです。

今回の選挙選で、私は私なりの正論を訴えて、当選させていただきました。応援していただいた方々に御礼申し上げます。ありがとうございました。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>